

《2010年5月総会報告》

【日 時】2010年5月8日（土）13：30～15：30

【会 場】味の素スタジアム内会議室

【出席者（12名）】

阿部博一 牛木素吉郎 奥山純一 金子正彦 梶野政志 岸卓巨 國分悠伸 高田勝敏 徳田仁
中塚義実 中西正紀 藤田直樹

【議決成立要件】2010年度会員数（総会時） 144+12-4=152名

出席者数12名、欠席連絡者96名のうち委任状提出者数94名、合計108名で、定足数に達した。

参考）2007年度は127名中、出席13名、欠席連絡かつ委任状提出66名、計79名（欠席連絡は73名）

2008年度は143名中、出席7名、欠席連絡かつ委任状提出86名、計93名（欠席連絡は90名）

2009年度は141名中、出席15名、欠席連絡かつ委任状提出79名、計94名（欠席連絡は86名）

【議 長】中塚義実（理事長）…規約による

【議事録】岸卓巨（作成）、中塚義実（確認・修正）

総会出欠（2010年5月8日 AM6：30 現在）

◆【総会欠席連絡者】 96名：うち委任状提出は94名

相原正道 朝倉雅史 浅野智嗣 浅野立也 安藤裕一 安藤悠太 石坂友司 泉優二 井田征次郎 伊藤慧 伊藤禎治 井上俊彦 井上俊也 今橋富士夫 宇都宮徹老 梅澤佳子 梅本嗣 江川純子 大塚正洋 大橋二郎 岡村理恵 小幡真一郎 笠野英弘 加納樹里 川井寿裕 菊池正史 菊地正行 北原由 熊谷建志 小池正通 木幡日出男 五香純典 齋藤健司 三枝敏洋 笹原勉 佐藤いちろう 佐藤清志 嶋崎雅規 澤井和彦 島原裕司 清水論 白井久明 神宮司親治 鈴木崇正 関谷綾子 高木亮 高崎康嗣 高田敏志 高橋義雄 高原涉 高藤順 多田寛 辰巳義和 田中俊也 田中理恵 田村修一 茅野英一 土谷享 豊田幸夫 仲澤眞 名方幸彦 中塚頼彦 中村敬 中村浩彦 長岡茂 名波涼子 西村祥央 野田直広 半澤隆憲 福西達男 藤田文武 麓信義 堀美和子 本郷由希 本多克己 前田博子 松田保 松本行弘 峯山典明 宮明透 宮川淑人 武藤太智 村木初年 望月浩一郎 本杉亀一 両角晶仁 矢野英典 山内紘子 山下高行 山下則之 山田告人 山本浩義 由利英明 横尾智治 吉村修 依藤正次

<委任状提出者（85名）内訳>

- ・中塚義実（含中塚理事長）：42名…浅野智嗣 安藤裕一 石坂友司 泉優二 井田征次郎 伊藤禎治 井上俊彦 今橋富士夫 梅本嗣 岡村理恵 小幡真一郎 笠野英弘 川井寿裕 北原由 小池正通 五香純典 齋藤健司 三枝敏洋 島原裕司 清水論 神宮司親治 鈴木崇正 関谷綾子 高田敏志 高橋義雄 辰巳義和 土谷享 仲澤眞 中村敬 中村浩彦 西村祥央 半澤隆憲 堀美和子 本多克己 前田博子 松田保 宮川淑人 村木初年 本杉亀一 山下高行 由利英明 吉村修
- ・中塚先生（含中塚さん、中塚様、中塚氏）：18名…朝倉雅史 宇都宮徹老 大塚正洋 菊池正史 佐藤清志 白井久明 高崎康嗣 高藤順 多田寛 田村修一 名波涼子 野田直広 松本行弘 峯山典明 武藤太智 山内紘子 山田告人 横尾智治
- ・理事長（含代表）：10名…安藤悠太 梅澤佳子 加納樹里 熊谷建志 笹原勉 嶋崎雅規 高原涉 茅野英一 本郷由希 両角晶仁
- ・議長：14名…伊藤慧 井上俊也 大橋二郎 菊地正行 木幡日出男 名方幸彦 中塚頼彦 長岡茂 福西達男 藤田文武 麓信義 望月浩一郎 山下則之 山本浩義
- ・高橋義雄：2名…澤井和彦 田中俊也
- ・徳田仁：1名…高木亮
- ・阿部理事：1名…依藤正次
- ・宮川淑人：1名…浅野立也
- ・岸卓巨：1名…佐藤いちろう
- ・総会（当日参加される方、出席者の総意・多数意見、総会の議決）：4名…田中理恵 豊田幸夫 宮明透 矢野英典

<委任状未提出者（2名）>

- ・「欠席」とのみ連絡＝委任状未提出：2名 … 相原正道 江川純子

【時程と内容（会場）】

13：20 味の素スタジアム 1 Fロイヤルホスト前集合→そろって移動

13：30～15：30 総会（スタジアム内会議室）

16：00～18：00 J 2リーグ「東京V vs ザスパ草津」観戦

18：30～21：00頃 懇親会

【主な決定事項】

◆2009年度決算および2010年度予算

- ・2009年度決算承認（「平成21年度サロン2002収支決算書」参照）
- ・2010年度予算承認（「平成21年度サロン2002予算書」参照）
- ・2010年度は会費未納の催促を少し早めに行い、3月末日で明確に決算できるようにする。

◆2010年度会員募集について

- ・2010年5月8日現在、新規入会12名。うち5名が女性！ サロンの快挙！

◆月例会・関西サロン・出張サロンの位置づけ

- ・関西サロンは、サロン2002の主催事業。参加費1,000円、報告書をホームページにアップすることは東京で開催される月例会と共通。今年度は本多氏、宮川氏を中心に年4回開催の方向で予算化する。
- ・いわゆる「出張サロン」は、地域の事情により主催が変わることがある。多少の曖昧さを残しつつ、今後も続けていく。
- ・会員の誰もが月例会の提案を行うことができる（それが地方開催の場合は「サロンin〇〇」となる）。話題提供or開催希望者は、中塚理事長および月例会担当理事（阿部博一氏、高橋義雄氏）に連絡、サロン2002の事業とするか検討する。
- ・演者など、何らかの用務を担う者を遠方から呼ぶ場合、上限3万円の範囲で出張費をサロン会計より支払うことができる。幹事役は開催地の者（出張費がかからない者）が行うことが望ましい。

◆2010年度のメインテーマについて

- ・2010年度は「FIFAワールドカップ」と「育成期の指導」をメインテーマとする。
- ・「育成期の指導」については、月例会でさまざまな角度からアプローチし、シンポジウムはどこかに焦点を絞って行う。2月開催予定。

◆サロンの事務局機能の強化と法人化へ向けて

- ・サロン会員が担う事業の中で、“ゆたかなくらし”につながるような公益性の高い活動を、サロンの事業として担っていくことはできないか。そのために事務局機能の強化と有給職員の雇用は可能かなどについて議論した。
- ・サロンの法人化についての話は何度も出ている。これまで出た話を踏まえ、継続的に議論していく。

◆ホームページの運営について

- ・トップページに「月例会の出欠連絡はこちら」というボタンを設けるなど、ホームページでの月例会出欠連絡の方法を分かりやすくする。
- ・月例会出欠連絡は現在のホームページに加え、メールでも受け付けられるよう考える。

◆規約の改廃

- ・第3条の「事業」を、事業内容が分かりやすいように修正してはどうかとの意見が出された。

◆理事の改選

- ・現行理事会は2009～2010が任期。2011年2月前後に役員候補者の選挙を行う。役員候補者選考委員会の委員長は、慣例により、副理事長の本多氏が務める。

◆ 目 次 ◆

0. はじめに
1. 2009 年度報告および決算
2. 2010 年度会員募集
3. 事業計画及び予算に関する事項
 - 3-1) 年間事業計画について
 - 3-2) 月例会・関西サロン・出張サロンの位置づけ
 - 3-3) 本年度のメインテーマについて
 - 3-4) サロンの事務局機能の強化と法人化へ向けて
 - 3-5) ホームページの運営について
4. 規約の改廃
5. 2010 年度予算
6. 理事の改選

0. はじめに

中塚：2010 年度の総会を始めます。サロンの総会の議長は理事長が務めることになっていますので、私の方で進めさせていただきます。総会の成立要件を確認します。現時点での会員数は 152 名。出席予定は 11 名でしたが、1 名追加でいらっしゃいましたので 12 名。欠席連絡 96 名のうち、委任状提出は 94 名。ですから定足数には達しています。委任状提出 94 名の内訳ですが、「中塚義実」または「中塚理事長」と書かれた方が 42 名もおり、「中塚先生」というのはもう 1 人会員で中塚が関西にいますので、紛らわしいので分けているのですが 18 名。理事長 10 名。議長 14 名。ここまでが、私の票です。それ以外に高橋さん、阿部さん、宮川さん。岸さんにはアーティストの佐藤いちろうさんが委任されています。徳田さんに委任された高木さんは、退会の意思表示をされています。高田さんからは「不測の場合には中塚理事長に委任します」とありますが、今日いらっしゃっています。ということで、会議としては成立しています。せっかくですので、参加者の方から簡単に自己紹介していただければと思います。

参加者の自己紹介…省略

年 1 回このような形で総会をやり、その年度の活動方針などを議論しています。本来であれば 2009 年度中に 2009 年度の事業報告や決算を済ませていなければいけないものが、サロンの場合時差が生まれていますので、そのあたりの確認もこの総会で行っています。流れとしては、「理事会報告」資料の続きになります。

【報告事項】

1. 2009 年度事業報告および決算

中塚：会計監査も済んでいますので、そのあたりを会計担当の岸運営委員からお願いします。

岸 : 決算書が表紙になっている資料をご覧ください。後ろに平成 21 年度監査結果報告という資料を付けていますが、監査の齋藤さんには既に監査をいただいております。

まず、決算書の収入の部ですが、会費としては 441,000 円。未納者の催促は 4 月 30 日までとしていましたので、4 月 30 日時点での会費受入金額となっています。雑収入は、107,002 円。口座の預金利息や寄付金を入れています。22 年度からは会費一口 3,000 円で、それ以上については寄付金扱いとなりましたが、21 年度までは 3,000 円以上のものも会費として受け入れておりましたので、例えば 5,000 円、6,000 円いただいた場合にも会費の方に入っています。前年度繰越金としては 108,105 円。合計 656,107 円が 21 年度の収入になります。

支出の部は、月例会補助 10,000 円。月例会については「月例会決算」という資料をご覧ください。月例会では参加者から 1,000 円ずついただき、報告者には 10,000 円、報告書作成者には 5,000 円をお支払いし、各回決算を行っています。その最終的なものが 10,000 円不足したということで、サロンの口座から 10,000 円を月例会補助として計上しております。

2 番目にプロジェクト補助ですが、今年度は 3 月にラグビー・ワールドカップについてのシンポジウムを行い、そこに補助を出しております。これについては「公開シンポジウム 2009 : 収支決算書」という資料を見ていただければと思います。シンポジウムは大きく分けて、シンポジウム当日関連のものと、後日作成する報告書関連のもので上下 2 段に分けていますが、報告書については 22 年度の決算で計上しますので、ここで補助として入れているのは、上の段のシンポジウム当日に関わるものです。参加費は大人 1,000 円、学生は無料とさせていただき、28,000 円が当日いただいた参加費になります。収支を合わせるために、129,603 円をサロン本体の口座からシンポジウム補助として出しております。支出の部については、会場使用料や雑費が含まれています。打ち合わせお茶代から案内文コピーまでは雑費の内訳と考えていただければと思います。今まで雑費の内容をこのように明記してはいなかったのですが、今回のシンポジウム後の懇親会で、集金したお金が足りなくなり、サロンの会計から懇親会補助として 9,500 円捻出したということがありましたので明記いたしました。去年も会計が合わず、事務局が自腹を切っていたことがあったようなのですが、それは良くないだろうということで、今回は雑費の中身を明記してシンポジウムの会計から支払うようにしました。以上が、決算書の 21 年度シンポジウム補助になります。もう 1 つ、シンポジウム補助の項目の中に 20 年度シンポジウム報告書補助というものがありますが、21 年度のラグビーの報告書を 22 年度決算に入れるのと同じように、20 年度に行われたシンポジウムの報告書の補助金を 21 年度の決算に入れていきます。シンポジウム補助は合計で 203,532 円です。

次に事務費に移ります。事務費の合計は 246,217 円ですが、諸謝礼と旅費について支出はありませんでした。印刷製本費については、会員の皆さんに名簿と昨年度のシンポジウム報告書をお送りする際に使用する封筒の印刷費とシンポジウムの案内コピー代を入れています。次に通信運搬費ですが、名簿を送る際の送料とお考えいただければと思います。今回 32,140 円となっていますが、サロンの名簿と報告書を一緒に送れたので安く上がりました。今年度も、名簿とともに、2 月に行った中村覚之助シンポジウム報告書、3 月のラグビーシンポジウム報告書の 3 冊をまとめて送りたいと考えています。雑役務費としては、振込手数料とメーリングリスト登録料、メールによる月例会案内・報告通信役務費を入れています。月例会案内・報告通信役務費については、中塚理事長から毎月送られてくる「通信」(月例会案内が掲載されている)費用を、ハガキ代 50 円×会員数×12 カ月ということで計上しています。消耗品費は、領収書を購入した代金を計上しています。

支出の部の合計が 459,749 円。22 年度への繰越金は 196,358 円です。以上で 21 年度の決算報告とさせていただきます。

中塚：21 年度決算ということで、監事の齋藤さんからの監査も受けています。今年度新たに入会された方もいらっしゃるので、これを見ながら、サロンの規模とお金の使われ方を把握していただければと思います。

少し補足ですが、先ほどのシンポジウムの雑費の懇親会代立替問題は「理事会報告」の 2 ページの下の方に記載されていますので参考にしてください。演者の方の懇親会代については、その方が会員かどうかにもよるのですが、今回はゲストとして参加していただいたので、演者分をサロンから出したということです。何か質問はありますでしょうか。

中西：支出の中で当初予算と異なるのは旅費だった訳ですが、それについて説明いただけますか。

岸：130,000 円を旅費として入れていたのは、21 年度に大分で出張サロンをやろうという話があり、そこに充てる予定が、諸般の事情から、年度内での大分でのサロンは難しいと判断し、21 年度には行わなかったためです。

中塚：補足すると、議事進行表の 10～11 ページのところに「補足 4：いわゆる”出張サロン”の経費について」という資料があります。一昨年までは、他県で月例会を行う際にも全員自腹で行っていたのですが、昨年度より、何らかの用務を果たしている人については、旅費はある一定の基準で出しているのではないかと、上限 3 万円ですることとしたのです。21 年度は大分ですることにしていただけど実行されなかったということです。

中西：要するに、発表者と書記の分ということですね。

中塚：基本的にはそういうことです。

阿部：「サロン 2002：月例会決算（2008 年度）→20 年度決算済み」という資料を見ると、20 年度は出張サロンを岡山・金沢・那智勝浦で 3 回やっています。21 年度もそのくらいやろうという意気込みがあったんでしょうね。

中塚：いや、逆なんです。20 年度にやりすぎたので、21 年度はホームに帰ろうということだったんです。だけど 1 回くらいやろうと言っていたらそれも流れてしまったということです。以上で 21 年度の決算報告および事業報告を終了させていただきます。ありがとうございました。

2. 2010 年度会員募集

中塚：次に、2010 年度会員募集についてです。一応 4 月 30 日を会員募集の締めにはしています。しかし実際は、いま岸さんの方からあったように、公開シンポジウムの報告書と合わせて名簿を送るつもりなので、シンポジウムの報告書ができあがらないと名簿もできないということで、ギリギリまで名簿の提出は待ちましようというスタンスです。ただ、ここから先はいつまでということが確約できませんので、お早めをお願いします。

現時点で退会の意思表示をされたのが、資料にある4名の方です。新規入会は12名、うち女性が5名もいるということはいずれの限りですね。快挙です。

「参考」のところにありますが、最後まで2009年度会費を納めてくれなかった方が12名いました。その中で退会すると言っている方もおられますが、その方は実は2009年度も会員ではなかったのだ、会員ではないのに通信を受け取っていたのだという非常に妙な状況でした。いずれにせよこの人数が退会者に加わります。

よって2010年度会員は、144名－退会の意思表示をした4名＋新規入会12名で、152名ということです。新入会の方の内訳については、13ページにホームページに掲載して良い情報からくっつけています。ここまでよろしいですか。

【審議事項】

中塚：ここからが本題です。議題については、「議題Ⅰ．事業計画及び予算に関する事項」で特に活動方針。どういう風な考えでいくかということ。それを月々どのような形でやっていくのかということ。これが今日の柱です。自由な発想で、自由にご意見をいただければと思います。「議題Ⅱ．規約の改廃」については既に年度末に行っていますので、ここでは議論することはないのではないかと思います。資料の後ろに付いている規約をもう1度見ていただいて気になる点があれば後で言ってください。その他、サロンに関する重要事項ということで、サロンの事務局機能と法人化に向けてというのが出ていますので、このあたりも議論できればと思います。

3. 事業計画及び予算に関する事項

3-1) 年間事業計画について

中塚：サロンの事業は、規約にも書いてありますが、月例会の開催・プロジェクトの承認・サロンと目的を同じくする団体の事業への参加・ホームページの運営・その他です。

まず、理事会でどのような話が出たかということですが、本年度のメインテーマは「FIFAワールドカップ」だろうと。これをどのように月例会に位置づけ、シンポジウムに持っていくかということが一つ。もう一つは、いろいろな人と話す中で出てきたこととして、「育成期の指導」を取り上げて議論の場を設けたらかなりおもしろいことになるのでは、ということでした。「FIFAワールドカップ」と「育成期の指導」を軸としながら、ここでもう少し12カ月をどのように割り振っていくかという話ができればと思います。

次に、関西でも定期的に月例会をやろうという話があります。理事会では年4回を目標に関西サロンをやろうという話になったのですが、関西の現有勢力だけではなかなか難しい。そこで、例えば宇都宮徹壺さんに関西に来てもらって話してもらおうようなことが具体化しようとしている。その時に、旅費の問題が出てくるので、もしそれを予算化するのであればここで合意が必要。関西サロンの活性化に向けて何ができるかということです。

その他サロンに関する重要事項として、事務局機能を強化し、以前に何度も話に出ているサロンの法人化を視野に入れて、今後どういう方向で活動していくかを残り時間を使って話せればと思います。

資料の4ページもご覧ください。理事会では、5月以降の月例会と関西サロンをこのように配置してはどうかという話が出ていました。5月は、今日も来られた高田勝敏さんにドイツの話をしていただきます。6月は、南アフリカに行つてすぐ帰ってくる人もいますので、その帰国報告を。あるいは現地ですべてやってもいいのではというのがあります。7月あたりに2002年を検証する企画が必要ではないか。これは昨年度の1月例会で五香さんがワールドカップ招致活動の背景について話してくれたけど、どうもコンセプトが弱い。そこで、2002年の検証をサロンでやる必要があるのではないかといいものです。8～11月で育成期の指導について取り上げ、12月はお宝映像上映会および忘年会。1月にワールドカップ招致のこと。2月に育成期の指導についてシンポジウムができればいいのでは、との話が理事会で出ていました。3月にフットボールの科学というテーマが入っているのは、2011年5月に名古屋大で、国際フットボール学会が行われるので、それへ向けてスポーツへの科学的なアプローチを取りあげてはどうかということです。

この案を1つの叩き台として、もっとこういう材料があるよというのがあれば自由に出版していただければと思います。

徳田：1月のワールドカップ招致の話については、2018年ではなく2022年招致を目指すことになったからだいぶ間が空きますね。

中塚：12月に決定なので、招致活動を振り返るのが1月のねらいです。

中西：それはタイムリーですね。それぞれ誰に話していただくかということは中塚理事長や皆さんの頭に浮かんでいきますか。

中塚：イメージが浮かんだところを割り振った形です。1月は五香さんに、招致活動の結果どうだったかということをご話していただきたいと思っています。フットボールの科学については、元会長を含めフットボール学会の重鎮がいっぱいいます。育成期ネタは、これはこれでえらいことになるくらい人がいっぱいいるので人材には事欠きません。

阿部：「理事会報告」の4ページに、前回理事会で話したことが出ています。この他には、以前サロンでクラマーさんと呼んでシンポジウムをやったので、クラマー来日50周年ということでまたできないかという話も出ました。理事会ではこの他にもいろいろ出ていたんですが、そんなにはできないということで、ここにいくつか挙げた次第です。

3-2) 月例会・関西サロン・出張サロンの位置づけ

牛木：2つ質問ですが、関西サロンや出張サロンの位置づけがはっきりしないように思うのですが、関西サロンはサロン2002の主催なんですか。また、我々が地方に行つて話すことが目的なのか、地方の人の話を聞くことが目的なのか。その辺を教えてください。

中塚：関西サロンの位置づけは、明確に決まっている訳ではありませんが、例えば関西サロンの内容は、東京での月例会と同じように報告書にまとめ、ホームページにアップします。参加費も1人1000円で共通です。そういう意味では、サロンの主催事業と言っていいので

はないでしょうか。ただ、中心になっている人が忙しく、定期的な開催はなかなか難しい。それでも、会員には関西の方も大勢いらっしゃるの、何とか年4回程度は開催し、それをサロンの事業として位置づけてみようではないかということです。今まではあいまいだった関西サロンをサロンの事業として明確に位置付け、ある程度予算化してやっていこうというのが今回の理事会で出た話です。

牛木：そうすると主催者の主体は東京にあるということですね。

中塚：いや、そうではありません。確かにサロンは、理事長以下、東京にいる人が始めたわけですが、実は主体という確たるものはないんです。「ネット空間にある」、あるいは「会員一人ひとりが主体である」と言っていいかもしれません。会員が言い出したことであれば、それがサロンの意思となるのではないかと思います。

牛木：関西でやる時に東京の会員が行くことは困難ですよ。だけど関西にも会員がいるわけだから、関西の会員のことを考えてやるということであればいいと思うんです。そうすると、関西の人たちが何をやりたいかを中心に関西サロンをやるべきではないかと思います。

中西：ということは、関西支部が必要ということですか。

中塚：実際、運営委員の中に枚方の宮川さん、理事に本多さんが入っています。2人は関西在住なので、この2人を中心にこれまでも関西サロンをやっていました。そこにもう何人か加わってもらって、もう少し計画的にやっていければと思います。しかし、最初にも言いましたが、関西の人だけで話題提供などすべてまかなえるかと言うと、そこまでいかないかもしれません。今回、宇都宮徹壺さんの名前が挙がったのは、宇都宮さんは東京ではいろいろなセミナーで南アフリカの話しておられるけど、関西ではまだあまりやっていないので、ワールドカップ前にやってもらおうとなったのです。その時に、宇都宮さんの交通費をどうするかという話になり、出張サロンの基準である、上限3万円を出せるようにしたらいいのではないかという話になったんです。

梶野：東京でやったテーマと同じものを関西でやるというのも1つの方法ですよ。

牛木：そうすると聞く人は関西の人中心で、我々がわざわざ行く必要はないということですね。今までは、関西の賀川（浩）さんの話や成田（十次郎）さんの話が聞けるからということで、関西に行ったり高知に行ったりしたわけですが、東京からスピーカーが行くなら我々が行く必要はないので。その辺ははっきりしないですよ。

中塚：サロンの月例会は、そこで出てくる話題だけでなく、そこに集う人との出会いや交流が軸となっています。話題は同じでも、そこに来ている関西の人とのネットワークづくりという意味では、大いに意味があると考えます。

もう1つご質問のあった出張サロンについても、考え方の基本は関西サロンと同じです。しかし、主催は毎回変わっています。例えば、刈谷でやった時は刈谷市サッカー協会が主催でした。それに、何人かサロンのメンバーが行って、刈谷の人と話をするという企画でした。また、金沢に行った時は金沢 21 世紀美術館の主催事業にサロンが協力する形でした。これは、美術館の方針にこちらが乗っかるような形でしたが、内容はホームページに

アップするという話を事前にしていました。それ以外の出張サロンは、我々の方の持ちかけで、サロン主催でした。特に取り決めはありません。地域ごとに事情が違うので、関西サロンと同じように、そこで出てくる話題とそこで会う人という2つでやってきたわけです。今後も出張サロンについては、多少の曖昧さが残る位置づけでいいのではないかと考えていますが、どうでしょうか。

徳田：出張サロンであっても、サロンの事業であるとするならば予算を組んでいくわけですよね。そうすると規約第3条の第1項が「月例会の開催」だけなので、ここに、月例会というのは年12回あってそれに出張サロンが含まれるかどうかということを入れておかないと、予算立てする時にどこで区別していいのかわかりにくいのではないのでしょうか。例えば、共催や後援をした時に、それはサロンの事業なのかという問題が出てくるかもしれないので、明記しておいた方がいいんじゃないのでしょうか。

中塚：出張サロンについては第3条の1と3ですね。公開シンポジウムは1と2です。

徳田：たぶん新規の会員の方は、これを見ても何のことかわからないと思うんです。例えば、こういうものだということを示した方が、会計はやりやすい気がします。

中塚：ホームページにはもう少し親切な説明が書いてあるんですが、あれもよくわかりませんか。去年入られた奥山さん、今年度新入会のお2人はいかがでしょうか。

奥山：そもそも僕は規約をあまり読んでいません。ただなんとなく、入っている人の話を聞いて実態を掴んでという形です。

高田：僕の理解では、関西サロンというのは関西在住の会員の方が東京と同じように運営されて、そちらの方で発表者を募ってこちらと同じように年12回やるのが理想だけれども、現状ではできないだろうから、東京から発表者が行くことがある。出張サロンは特別なんだろうなということで理解しました。それが規約に対してどうなのかということは、規約をしっかり読んでいないのでわかりません。明記することで他の人がわかりやすくなるのであればそうした方がいいと思いますが、現状でも間違っているわけではないと思います。

國分：質問ですが、関西にいる方でサロンに所属されている方は何名くらいいらっしゃるのでしょうか。

中塚：20～30名はいると思います。

國分：もっと少ないと思ったので、わざわざ関西でやるのもどうなのかと思いました。

梶野：原点は、東京でやる時も関西の人が来るタイミングに合わせてやったりしていましたよね。それから会員数が増えて、関西にも需要があるという話なんだろうと思っているけど、ある程度、月例会・関西サロン・出張サロンの位置づけを整理すれば、自分がどこに行っているのかもわかるし、例えば月例会と関西サロンをどこか日程を合わせて行えば一体とした会になると思う。今の形だと組織として一体感がない感じがするんですよね。

牛木：関西に 20～30 人も会員がいるのであれば、関西で定期的集まって、その場の中塚さんに来てもらいたいのであれば、東京のサロンから上限 3 万円で派遣するというのにはありだと思っんですよね。もう 1 つ、東京でやる月例会を全国に案内しているのと同じように、関西でやるサロンについても全国に案内すれば、行ける時は行けるということになる。そうすれば関西サロンについて明確になると思っんです。僕は東京の方が人材がいるとは思っないんですが、関西の人が東京の人の話を聞きたいというのであれば、派遣するのはいいと思っっています。

梶野：今後発展して 1000 人近くなってきた場合、全国に支部を分けていくことまでビジョンとして考えているのかについてはいかがですか。

中塚：ビジョンとしては、サロンの会員は地球上どこにでもいる。けれど人はどこかで暮らしている。東京に暮らしている人が多いのであれば月例会は東京で行い、そこに人が集まる。関西に暮らしている人が多いのであれば関西でも行う。でも、情報はネットで一斉に送れるので、その時に行ける人が、行けるところに集まる。例えば北海道の会員がサロンを開催する。会員でなくても、北海道でせっかくやるのだから参加しようという人がいてもいいわけだ。そこで触発された人が、このゆるやかなネットワークに入っていく。気が付けば、志に賛同する人のネットワークは世界中に広がっている…。そのようなイメージを持っっています。ですから、東京支部はこの人、関西支部はこの人とメンバーを固定するイメージではないんですね。

牛木：私が言っっているのも同じイメージなんです。同じイメージなんだけど、関西でやる時の幹事役は関西の人がいい。そして、関西の人たちが望むようなものに対して東京の人でも協力するということなので、例えば幹事役が東京から行くための費用をサロンから出す必要はないのではないかなと思っんです。発表者の経費についてはわかるんだけど、東京からわざわざ主催者が行って、その経費も全体から出すのではなくて、開催地の主体性をもっと尊重した方がいいと思っし、開催地の人が中心になって運営した方がいいというのが僕の考えです。

梶野：東京で月例会をやる時に九州の発表者を呼ぶ場合は、その人の旅費を出すということですよ。

中塚：そうです。何らかの任務のある人が行く時には出張費を出しますよという考え方です。

牛木：サロンが費用を出して演者を派遣するという立場になるわけですよ。あるいは、私が言っっているのは関西の人で費用を出しあって演者を呼ぶというのはどうですかということなんです。

岸：今の話ですと、東京の人だけが会費を払っていればそうなるかなと思っんですが、大阪の方も会費を払っているので、その中から出すとなると「派遣する」というものではないかなと思っんですが。

牛木：関西サロンの時に、中塚さんが理事長だから 1 つの用務を帯びて出張する必要があるかというのが 1 つの疑問なんです。そういう仕事は関西にいる幹事さんが中心になってやれば

いいのではないかと思います。しかし、宇都宮さんの話が聞きたいというのであれば、彼は東京に住んでいるのだから、彼が行く費用はサロンの全体の費用から出していいのではないのでしょうか。幹事役はその土地の人がやった方が活性化されると思うんです。

中塚：そうですね。

中西：そうすると、例えば釧路でサッカーとアイスホッケーの関係なんかをやる場合には、釧路や帯広の人が中心になって企画して、発表者を東京から呼ぶ場合にはその人の旅費は持つけれども、参加者は東京でも札幌でも自費で来てくれということですね。

梶野：今は理事を選出する時も地域を考慮して選出しているわけではないし。

中塚：いや、関西からは出してもらおうようにしているんです。

梶野：サロンの考え方としては、理事長の下に筆頭理事のような形で東京と関西にいて、その人がいれば月例会として成立するという位置づけをすれば全く問題ないのではないのでしょうか。

中西：理事の権限の中に、サロンの開催権限を持つというようなことを明文化してもいいのではないかと思います。誰かいないとサロンの集まりにはならないわけですから。サロンの承認を得て、理事が参加することによって、この集まりが単なるサッカーファンの集まりではなくてサロン 2002 の公的な集まりであるという定義付けができると思います。

中塚：そうすると自由度が低下することはないですか。

奥山：シンプルに聞きたいんですが、今話しているのは何かのルールを決めようという話なんですよね。

中塚：ものすごく単純に言うと、今度関西で月例会をやろうとしている。ところが演者として東京から宇都宮さんと呼ぼうとしている。この出張費をサロンとして出してもいいかということなんです。

奥山：そういう理想はみんなて共有できたかと思うんですが、次に現実を見て、現実と理想の間をルールで埋めていければと思ったんです。今の話の中で現実が見えてこないのですが。

中塚：僕は現実もこうなっていると思っているんですけどね。ただ北海道ではやっていないという話で。関西でも何回かやっているし、東京ではやっているし。今度大分でもやるし。

奥山：東京では中塚さんが中心にやっているという見方を僕はしているんですが、関西で同じように中心になる方はいらっしゃるんですか。

中塚：本多さんと宮川さん。

奥山：その方がいらっしゃれば、あとはその時に必要な方を集めるからその時の経費をくれとい

うすごくシンプルな話な気がします。本部、支部という考え方もあまりいらぬのではな
いかと思います。

中塚：そうですね。

中西：ただ、会をやる時に誰かいないといけぬから、理事さんや幹事さんが行って、サロン全
体でその都度承認していく形を取れば、そんなにややこしいことにはなぬと思います。

中塚：そこで会員の“中心”と“周縁”の話になってしまうんです。人数が少なかつた頃は、理
事も何もありません。ただ、人数が増えて組織が大きくなつてきたから理事会を作って、
理事会と総会という二段構えでやっているけど、基本の考えは、会員は全員理事なんです。
サロン 2002 って誰なんですかと言つたら「あなたです」ということなんです。だから、
理事が行かぬといけぬということではなく、サロンの会員がサロンとしてやると言つ
たらそれでいいのではなぬかと僕は思っています。

奥山：ある日、僕がやりたいと言つたら、じゃあがんばってという話なんですよね。僕もそうい
う認識をしていました。

中西：それだと通るのかな。私が川崎でやりたいと言つた時に、地域密着で有名な甲府から人を
呼んでくるとして、メンバーは私だけであとは私の仲間内だとしたら、そんなんで旅費は
出ませんよね。それはサロンの公的な会としてやってはいけぬという話になるわけす
よね。

中塚：今は何だかんだ理事会があつて月例会担当理事として阿部さんと高橋さんがいるので、阿
部さん、高橋さん、僕のところに連絡してもらつて、「こんなこと考えているんだけどど
うですか」ということで、このあたりで話をまとめればいいんじゃないかと思うんです。
実際は中西さんがお住まいの川崎で開催し、甲府から人を呼ぶ。その時に甲府の人の旅費
については、その時の中身によって妥当性があれば出してもいいんじゃないかと思ひます。

牛木：これ以上ここで話しても噛み合わぬと思うので、こういう議論があつたということでも
また検討していただければと思うのですが。関西サロンの在り方について議論が提起された
ということだけ記録して次に移つたらいかがですか。

中塚：ただ、基本的な考えのところがものすごく大事だと思うので、理事会というのがあつて理
事と一般会員という形になっていますけど、基本的なところは僕が言つたようなスタンス
です。それを確認したいと思ひます。

梶野：今中塚さんがおっしゃつた個人個人提案して欲しいというのは、提案として受け入れて実
際に実施するかどうかは理事会で検討して、それぞれ実施するかしないか。あるいはもう
ちょっと延ばすかというだけ決まっていけば問題ないと思ひます。月例会の始め方という
のはこれでわかりますよね。

中塚：むしろ担当理事としても会員からの提案を待っているわけですよね。関西サロンの定例化
の方向性もよろしいですか。それについてある程度予算立ても考えていく。それ以外の出

張についても、大分からは前から提案があるんですが、そのあたりも加味した予算立てをしていければと思います。

3-3) 本年度のメインテーマについて

中塚：年間の大まかな計画として「ワールドカップ」と「育成期の指導」と、柱が2つになってしましますが、どちらも取り上げたいという気がするので。シンポジウムについては育成期の指導を取り上げたいというのが理事会で出た意見なのですが、そこについてはいかがでしょうか。

牛木：育成というのはどういうことを指すのでしょうか。日本代表の選手を育てていくエリート育成についてなのか、一般の子どもたちにサッカーを楽しませて育てるといったことなのか。

中塚：両方繋がってくるだろうと思います。例えば8~11月に月例会が何回かあるので、ある時はエリート育成の話、ある時は学校スポーツの話というような形で、月例会の中ではいくつか柱が立てられるかと思います。

牛木：育成というよりはむしろユース年代・ジュニアユース年代のサッカーについてということなんですか。

中塚：そうですね。

岸：前回理事会で出た話は「理事会報告」の4ページに記載されています。

牛木：これだとつまりトップレベルの選手を育てるためにという感じですね。

中塚：話の発端はそうですけど、そこに特化しないでユース年代のサッカー環境全般のことです。

牛木：ワールドカップが終わると、日本が不成績で育成が大事だということになって、ここに繋がるのかなと思ひまして。

阿部：理事会で出たのはそういう話ではなくて、高田勝敏さんがドイツから戻ってこられ、高田敏志さんがイタリアの指導者の講習会に参加されたなど、サロンの会員の中には育成に関わっている人が多くいるから、その人たちの声をあげてきて皆でいろいろな議論をしたらおもしろいのではないかと話でした。

牛木：全体としては完全に切り離して論ずることはできないものだけれども、一般のサッカーファンの関心から言うと、もっと選手を育てて日本代表を強くしなければいけないという話に興味があるだろう。逆に高田さんや藤田さんのように、実際に子どもたちを扱っている人たちにとっては、どうやって子どもたちを育てたらいいだろうかということに関心があるので、アプローチの仕方が違うのではないかと思います。両方まとめてやった方がいいか焦点を絞った方がいいかは1つの論点かだと思います。

中塚：それは2月のシンポジウムに向けてということですよ。

牛木：そうですね。シンポジウムはどこかに論点を絞らないと時間的に話がばらけてしまいますよね。

中塚：話の発端は、実は指導者養成の話だったんです。指導者の講習会を私も含めて何人か受講したけど、あれでいいのかという話から始まっています。場合によっては、月例会でさまざまな角度からアプローチしてきたのを、シンポジウムではJFAにももの申すではないけど、そういう形でもいいのかなという気はしています。

牛木：非常に重要なテーマで、取り上げるにはふさわしいと思うけど、ワールドカップを取り上げないとばらけてしまうかなという気はしますけどね。

中塚：ワールドカップを取り上げないわけにもいけないので、ここは2本柱でいければと思うのですがいかがでしょうか。

牛木：僕は、ワールドカップは、終わった後に1回だけにして、もう育成に絞ってやったほうが、サロンのもともとの成り立ちから考えてもふさわしいテーマじゃないかと思います。

中塚：ワールドカップはともかく、ということですか。

牛木：そうですね。例えば、ワールドカップは7月の終わり以降にやらないと、6月だとまるで日本が3戦全敗したからやるような感じなので、8月くらいに1度ワールドカップを総括して、そして後は育成に持って行った方がいいかもしれない。毎年、サロンは欲張りすぎてしまう傾向があるので。

中西：2002年ワールドカップの話は、今回とは直接は関係ない話ですよ。1月の招致活動の話も2010年ではなく2022年の話ですよ。

中塚：むしろ2002年の検証と1月の2022年の招致がリンクしているんです。

中西：2010年の話は6月予定のものと8月から11月の間でやる計2回ということですよ。

中塚：そうですね。ちなみに6月はまだ案でしかありませんが、私はカメルーン戦が終わって、17日に戻って来ます。その後南アフリカへ行く人もいないかもしれないので、その間、21日からの週あたりで簡単な帰国報告をさせてもらえたらというイメージなんです（実際は6月20日に開催予定）。

本年度のテーマとして「2010FIFA ワールドカップ・南アフリカ」と限定するのではなくて「FIFA ワールドカップ」ですね。招致も含め。「FIFA ワールドカップ」と「育成期の指導」ということでよろしいでしょうか。

⇒承認。

3-4) サロンの事務局機能の強化と法人化へ向けて

中塚：「理事会報告」の5ページをご覧ください。これもここで結論の出る話ではないと思うんですが、サロンの潜在的な力をより大きなものにつなげていくためにも、事務局機能の強化は必要です。有給のサロン職員がいろいろな仕事を担って行く形が取れないだろうかと。実質的にDUOリーグの事務局長は岸さんがやってくれていて、ホームページは本多さんがやって、スキンプロジェクトも土谷さんや佐藤さんがやってくれている。その部分も回っていることは回っているんですが、結構事務作業が大変。そういう、“ゆたかなくらし”につながるような、サロン会員が担う個々の活動を、ある程度事務局で集約し、具体的なアウトプットに持っていける体制を取れないだろうかと。その話の先に、サロンそのものの法人化という話も出てきます。ここは時間を区切って意見だけいただければと思います。

徳田：法人化というのはNPOということですか。

中塚：まあ、そうですね。

徳田：規約とかの話をもたまたま突き詰めてやらなければいけなくなりますね。

牛木：現状のこういう会のままNPO法人にするというのは、認可されない可能性があると思います。特定のメンバーでやるとかとなると。実は東大のOB会をNPO法人化しようと思ったんだけど、それは認可されなかったことがありました。ちょっと研究してみる必要がある。社団法人のような形であれば性質として合うような気がします。今、一般社団法人はわりと簡単に認可されますが、やはり監督されるとか経理の面などやっかいなこともあります。

徳田：法人化の目的は、ここに書いてある有給のサロン職員を雇うためということですよ。

中塚：法人化のきっかけは、契約、所有、雇用のいずれかが生じた場合です。何かやらなければいけないことが起きた時に考えなければいけないわけですけど、その時に、実はサロンの周りに公益性の高い事業が転がっているのではないかと考えています。それをもう少し整理すると特定非営利活動法人としてもいけるのではないのでしょうか。

梶野：収益の見込みは。収益の見込みがないと法人化しても賃金が払えないし。今後の課題ですよ。

徳田：これは継続して考えていけなければいけない問題だと思います。理事の中にこの担当の人を足すか、今いる理事の人に定期的にこれについて報告してもらうシステムにした方がいいんじゃないですか。今回ここで終わってまた来年になってしまうと継続性のない話になってしまうので。

中塚：実はこの話は何回も繰り返していて、それこそNPO法が生まれる前からこういう制度ができるということで話をしていました。その時に出てきた話の1つが、ゆるやかなネットワークでいくのか、会員をきっちりさせるのかという話。そして、中心と周縁の話。それから、サロンはシュートを打つところまでやるのか、それともそれは個々の会員がやるこ

とでサロンはシュートを打つ手前のところで終わっていいんじゃないかという話。そのあたりの経緯をもう1回洗いざらい出した方がいいかもしれませんね。その上で、皆同じ土俵でこの話をやれるようにした方がいいのではないかと思います。ついでに、「議事進行表」の4ページ下の補足資料で、依藤さんから、今のNPOの話とも関係するかもしれないけど苦言をいただいております。NPO法人で毎年苦勞されているそうです。そういうような意見がありました。今回事前に議題を示せなかったのはこちらの責任ですが、むしろ会員の皆さんから「私はこういうことを考えたんだけど」ということをどんどん出してほしいというスタンスだということです。

3-5) ホームページの運営について

中塚：ホームページの運営について何かございますでしょうか。

奥山：月例会の出欠連絡の方法がいまいよくわからない。「ホームページに月例会の出欠はこちら」というボタンが1つあればすごく楽なのだと思います。

徳田：ログインすると出ませんか。

奥山：どこにログインする箇所がありますでしょうか。今月は何をしますというページをクリックしてはじめて出欠の箇所が出ていますが、正直今月何をするかはメールをいただいた時点でわかっているので、もっとシンプルにできないのかと思います。画面を見た時に、すぐに「月例会の出欠連絡はこちら」というボタンがあるだけで、話は簡単かと思います。

徳田：でも、出欠連絡は会員でなければいけないわけでしょう。一般のホームページに飛び込んできた人が出欠連絡というところに行ってしまったらだめなわけですね。

奥山：そこで見られなかったら余計会員になろうと思いませんかね。

徳田：書き方をうまく「これは会員への文章だから見たかったらあなたも会員になりなさいよ」ということが伝わる文章だったらいいですが。

奥山：とりあえずはわかりづらかったということだけを。数を増やすのであればあの手この手いろいろな方法はあるのではないかと思います。

徳田：僕もその辺は思います。例えば、ホームページの写真が1年以上変わってないとかね。

中塚：定期的に変えようと言っていたんですけどね。

牛木：あの出欠連絡は手続き的にちょっと面倒くさいので、出欠の返事もなかなか出しにくい。うまくいなくて中塚さんに直接メールしてしまったこともある。月例会の通知みたいなものはグループメールで送って、その返事をするチャンネルを1つ作っておいた方がいいのではないのでしょうか。ピバ！サッカーの方はそうしています。それを担当している人が1人いてやっています。それは簡単なんです。メールは毎日チェックするので、それで返

事をできればそれで済みます。一般の人たち向けには、ホームページに月例会の内容が出ていて、はじめて参加する人はそこから入っていく。ホームページは一般の人のためのメディア。グループメールは会員のためのメディアというように考えた方が利用しやすいのではないのでしょうか。

徳田：出欠連絡をどちらでもできるようにしたらいいのではないですか。ただ、その出欠メールを中塚さんがやるのではなくて、月例会担当理事がいるのでその人に任せた方がいいですよ。最近入った人だと中塚さんが怖いと思っている人もいるだろうから（笑）

中塚：その辺は改善しましょう。だけど、これも経緯があって、最初はグループメールでやっていただけそれが面倒ということになって、忘年会の時にホームページ上で出欠確認をしたところ、えらく簡単だということになって、それで採用したんです。

徳田：欠席した人の言い訳も出るから。会としては、この人はこれで出られないんだというのが分かるのはいいんですけどね。

岸：誰が来るかというのも参加を決める1つの要素ですよ。

奥田：細かい話ですが、月例会案内メールにホームページのURLを載せるだけでもやりやすさは違いますよね。あの手この手の方法は思いつくので。

中塚：わかりました。後でまた教えてください。

4. 規約の改廃

中塚：規約の改廃については、徳田さんから、事業の内容をもう少しわかりやすくした方がいいのではないかという意見がありましたけど、ほかに気になる点などありましたら。事業については、皆で話しても仕方がないので理事中心に、規約に詳しい両角さんなどにもアドバイスいただいて考えていこうと思います。

5. 2010年度予算

中塚：最後に、以上の議論を踏まえて、2010年度の予算について、岸さんの方からお願いします。

岸： 予算書（案）をご覧ください。上から順番に確認していきます。まずは、前年度繰越金が196,358円ということで、先ほどの21年度決算から繰り越してきたものです。会費収入については、今年から1口3000円で、それ以上については寄付金扱いとなりますので、会費収入425,000円、寄付金45,000円を見込んでおります。雑収入は前年度の例をもとに預金利息を計上しています。収入の部の合計は666,403円です。

支出の部については、月例会の補助を、21年度は10,000円だったんですが参加人数によって変動しますので、今年度は20,000円としています。プロジェクトの補助としては22年度のシンポジウム開催分と21年度のラグビーのシンポジウムの報告書の印刷費をここ

から出したいと考えています。事務費については、先ほどご質問いただきました旅費の部分で、22年度は出張サロンを行おうということで、旅費に130,000円を見込んでいます。上限3万円の中でここから出張費を出していきたいと考えています。印刷製本費については、今年も名簿を作成しますので、その値段と足りない分の封筒を印刷するために113,000円を見込んでいます。通信運搬費については今まで通りで、報告書送付代として30,000円を見込んでいます。雑役務費については、最終的に会員が何名かによって月例会案内・報告作成費が変わってくるのですが、現在無償でやっただいている公開シンポジウムの事務局もゆくゆくは有償でやっていくと考え、201,110円を見込んでいます。消耗品費5,000円は前年度と変わりません。支出の部合計は666,403円です。

金子：収入の部と支出の部の合計金額が違っているのですが。

岸：申し訳ありません。前年度繰越金の増減額がプラスになり、収入の部合計も+95,403円になります。

中塚：シンポジウム補助の中に、平成21年度シンポジウム印刷費補助とありますが、今年度は中村覚之助シンポジウムの補助とラグビーシンポジウム補助の2つがありますね。覚之助のシンポジウム報告書は買い取り形式なので、それをどこかに入れておかないとまずいですね。当初は150部で75,000円支払うことにしていましたが、会員数が150名を越えそうなので180部で90,000円でいいでしょうか。

牛木：これは会が買い取って会員に無料で配るための予算ですね。

徳田：3,000円の会費に含まれるということですか。送料もかかるんだから売ってもいいんじゃないでしょうか。そうすれば収入の部に計上できると思います。無償で配ると言っても送るのにお金がかかりますからね。

岸：送料についてはどちらにしても名簿を送るので、それと一緒に送ればと思っています。そうしましたら、シンポジウム補助を200,000円に増やし、雑役務費を111,110円に減らすということによろしいでしょうか。

中塚：本年度の予算はこれでいきたいと思うのですがよろしいでしょうか。

⇒承認。（「平成22年度サロン2002予算書」参照）

岸：監査の齋藤さんからいただいたご意見で、次年度以降に向けて改善すべき点ということなのですが、まず今回齋藤さんに直接お会いして監査を受けることができたのでだいぶスムーズにお話しすることができました。まず、「会費未納会員に対する督促は、年度終了間際ではなく、少し早めに行い、会計の年度決算がスムーズに行えるようにするべきである。」ということで、今は会費未納者への最終的な催促を4月中に行っていて、4月には新年度の会費も合わせて振り込まれてくるので、通帳上で前年度のものと同年度のものが一緒になってしまう時期があります。そこで、今年度であれば、22年度の会費は2011年の3月末日までにお支払いいただくということを締切にして、23年度の会費は4月からいただく形にして、22年度の会計は3月末日で締めるという形にしたいと思います。2つ目は、「支出等に関する領収証などの証拠書類については、帳簿に収め、会計担当者の引継時に

すべて現物で引継ができるように整理するべきである。」ということです。今年度は私が年度途中で会計を引き継いだため引き継ぎができていなかったものがあったので、今後はノートを渡せばそのまま引き継げるような形にしていければということで、早速ノートを用意してやっております。3番目は、「当該年度の終了日である3月31日を過ぎたその年度の会費等の収入等については、次年度の収支に組み入れ、該当する年度の決算を速やかに終了することが望ましい。」ということです。1番の時にお話ししたように、3月31日締め切りと言っても、23年の4月に振り込まれる方もいらっしゃいます。今まではその年度に遡って決算を修正していたのですが、そうではなくて、その場合は23年度の会計に入れてしまおうということです。4番目は、「収支報告書等は、監事による監査を経る前に、理事会における議決を経たことを明確に確認してから、監査を受けるよう手続きを再確認する必要がある。」ということで、これも理事会を行う時期と催促する時期にも関わってくるのですが、決算案が確定する前に監査を受けているような状態がありますので、そこを3月末日で決算案を確定した後、理事会で確認して、監査を受けるという流れでしていきたいと思います。新年度の会費と名簿の受入をこれまでは前年度3月から行っていました。が、しっかりと年度を区別するために、今後は4月以降に行っていきたいと思います。このようなスケジュールで進めていきたいと思います。以上です。

中塚：いずれもごもっともな事です。これに沿ってやっていきましょう。

6. 理事会改選について

中塚：予告ですが、今年度末で理事の改選になります。こちらの「理事会報告」の1番後ろのページに役員を選任手続きに規定というものがありますので、これに沿って2011～2012年度の役員候補者が決まって来ます。慣例で役員候補者選考委員会の委員長を副理事長にお願いする形にしています。本多さんには既にお願ひしているのですが、来年2月前後に役員候補の投票があると思いますので、それを頭に入れておいてください。

中塚：以上で用意していた議題は全て終了ですが、全体を通して何かございますでしょうか。それでは閉会といたします。どうもありがとうございました。

以上